

「第4回北東アジア企業発展フォーラム ～大健康産業と食品工業～」に関する報告

ERINA 業務執行理事

田中徹

8月27日に中国吉林省延辺朝鮮族自治州の州都・延吉市で開催された「第4回北東アジア企業発展フォーラム～大健康産業と食品工業～」に参加した。

1. 会議の趣旨

経済成長を続ける中国においては、中部以南の海に面した諸都市の発展が目覚ましいが、東北地方内陸の延辺朝鮮族自治州も、ロシア・北朝鮮と国境を接する

地理的優位性を活かして外国との経済交流を通じた発展を目指している。この会議は、延辺朝鮮族自治州で発達している食品工業を近年世界的に注目されている健康産業と結びつけて拡大すると共に、日本・ロシア・韓国の健康産業や食品工業と連携・協力し、さらに成長することを目的として4年前から開催されている。

2. 会議の概要

- (1) 名称:2017第4回北東アジア企業発展フォーラム～大健康産業と食品工業～
- (2) 日時:2017年8月27日(日)14:00～16:30
- (3) 場所:中国吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市白山ホテル3階国際会議センター
- (4) 主催:延辺朝鮮族自治州企業連合会・延辺朝鮮族自治州企業家協会
- (5) 参加者数:約90名
- (6) 使用言語:日中韓ロ4カ国語(同時通訳)

3. 会議の内容

(1) 参加団体代表による講演

ア 延辺朝鮮族自治州企業連合会会長 金碩仁

北東アジア各国の健康産業が置かれた状況や優越性などについて触れた後、2020年の健康産業の世界総生産額が13兆ドル余りに達するという予想に言及し、時代のトレンドに合致して将来の需要が巨大かつ有望な産業分野であることを強調した。

また、健康産業の中でも食品産業を「食物と栄養で健康管理するのが最も経済的な方法」としてその重要性を説き、延辺朝鮮族自治州（以下、延辺州と記載）の特色ある食品産業を次のように紹介した。①キムチを中心とした漬物産業が発達しており、世界に向けて輸出しているほか、中国政府から「朝鮮族食品用品基地」と命名された。②松茸・キクラゲ・山菜・蜂蜜・松の実など林産物の特産品に恵まれ、キノコ類の生産額は昨年約6億7千万ドルであった。③長白山系の湧き水を利用したミネラルウォーター産業も盛んで、広州・陝西・福建等国内はもちろん、台湾・韓国からも企業が進出し、生産額は昨年約45億ドルに達した。④健康食品の代表・朝鮮人参は延辺州の特産で、生産額は約15億ドルとなった。現在もブランドの維持と向上に努力している。

参加した各国の各団体・企業に対しては、積極的な情報交換やビジネス上の課題に対する支援など、北東アジア地域全体での協力をさらに進めるよう呼びかけた。

イ 環日本海経済研究所業務執行理事 田中徹

健康産業・食品産業は「モノを作って売る」という発想だけでなく、「一定のコンセプトの中で様々なサービスと組合わせて新たな付加価値を作り出し、商品を総合的に売る」という手法の一つを提示した。具体的には、日本各地で行われているヘルスツーリズムであり、例として新潟県の薬膳ツーリズムを挙げた。延辺州は中・ロ・朝の3カ国が国境を接する国際性豊かな地域であること、長白山系のリゾートや様々な健康食品・料理の素材があること、高速道路・高速鉄道・航空路線に恵まれた

交通至便の地にあることなどに言及し、ヘルスツーリズムの可能性を指摘した。

ウ 韓国経営者総協会常務ユ・ギジョン

韓国国民の健康状況や健康産業の現状について、2026年には超高齢化社会を迎えること、健康医療産業が韓国経済の長期低成長を解消する重要な産業になりうること、健康医療産業の市場自体はここ5年間平均で6.3%の高成長を続けていること、しかし韓国は食品全体の市場規模が中国（1兆169億ドル）、アメリカ（9258億ドル）、日本（4427億ドル）に比べて633億ドルと小さく、健康食品は成長を続けながらも現在約53億ドルほどであることなどについて統計により説明した。

また今後の課題として、政府による民間営利医療法人の許容や再生医療・遺伝子治療などの最先端医療に対する規制緩和を通じて保健・医療産業の育成・拡大を行うこと、これに付随する健康機能食品産業や給食・宅配などのサービス産業が育成されるべきことなどを提起した。

エ ロシア沿海地方商工会議所会頭 ボリス・ストゥブニツキー

健康産業が人々の関心を集め、健康食品の消費形態も一過性のプレゼントから常用して健康の維持向上に役立てる形の消費に変わるなど時代の流行になっていること、また、健康は人的資源がその能力を発揮するための大切な基礎であり、労働力の資質や生産性の向上にも寄与するため、健康産業が経済の安定した発展を維持する大切な産業であり、国の重要な戦略的産業でもあることなどに触れた。

ロシアでは、経済は依然としてエネルギー産業を中心としており、世界経済の影響を受けて多少の困難も見られるが、緩やかに成長を続け、消費者の嗜好も次第に多様化して、ここ数年は健康食品市場の拡大もうかがわれることを説明した。また、健康食品は医薬品・サプリメントなどととも国の衛生部の審査登録を受ける必要があること、外国企業がロシア市場への進出を図る場合には、ロシア企業との協力や地域の商工会議所のアドバイスなどを受けたほうがよいことなどを提言した。

最後に、ロシア政府が極東開発を国の政策として重視しており、税の優遇策や自由流通の施策を実施して海外からの投資

を歓迎していることに言及し、北東アジア各国企業の連携と協力による沿海地方への健康食品産業の進出を期待していることを伝えた。

(2) 各国企業家による企業・製品紹介等

ア 延辺金剛山食品株式会社理事長 趙勇哲（中国延辺州）

- ・2003年4月に延辺新興工業集中区で創立。製品はキムチ、カクトゥギ、ケンニブ（荳胡麻の葉）キムチ、トラジ（桔梗）、コチュジャンなど朝鮮族の伝統的な食品が約100種類ある。
- ・設立当初は5人だけの小さな会社で、ブランドもなく販売は苦しかったが、工場を拡張して現代的設備の機械化生産により生産能力と品質を大幅に向上させた。
- ・これにより市場シェアを拡大し、ブランドを確立すると共に、研究開発チームを立ち上げて外国企業にも学びつつ、常に先進技術を導入し新製品を開発してきた。
- ・10年余りで会社は急成長し、中国一のキムチ生産企業になった。金剛山キムチは吉林省のブランドになり、現在、直営店・専門店・チェーン店は1000店を超えた。
- ・さらに電子商取引にも参入し、売り上げは次第に増加して、新たな経営基盤を形成している。
- ・成功の要因は、①品質が一番で、常に新しくより良い製品を研究開発で作出し、品質管理を充実して安定した製品を供給すること、②市場からのフィードバックを重視して、需要に合った製品を供給すること（品質だけでなく小分けの包装や地域・年齢に応じた味の微調整など売り方に留意）など。

イ 延吉秀愛食品有限公司副総経理 坂本高敏（日本）

- ・2004年5月、延吉市の経済開発区内に設立された。製菓・ドライフルーツ・ナッツ類などの加工食品を扱う東京・秋葉原の正栄食品工業（株）が100%出資したグループ会社で、事業内容はそのうちのナッツ類などである。
- ・製品はナッツ類やシード類。中国東北

地方で収穫される松の実(特に紅松の実)をはじめアメリカのクルミ・アーモンド・ピーカンナッツ、オーストラリアのマカデミアナッツ、中国のカボチャの種など、年間約5000tを生産・出荷している。

- ・ 欧米向けの輸出用がメインだが、中国の国内用(パンメーカーや洋菓子メーカーへの納品など)にも力を入れている。
- ・ 食品工業の4つの基本的要素は「原料」「機械」「人」「方法」である。良い原料を産地近辺で確保し、機械や設備は常に整理整頓して清潔な状態を保つようルール化し、従業員にルール・技能・知識を繰り返し教育し、人と機械の配置・点検・記録などを品質・コスト・安全の面から十分に考慮すること。また、現地の法律や基準、取引先との取り決めを遵守することである。
- ・ 経営上の留意点は、①常に利益を出すために、通年生産が可能で得意分野の主力製品を3品目以上有すること、②他社製品と自社製品の差を分析し、自社製品の品質メリットが何かを認識すること、③製品原価を細かく管理し、販売価格の競争力を失わないこと、④営業と連携し、常に変化する市場の需要を把握して製品開発することであり、一層の規模拡大には新商品の開発が重要になる。

ウ 吉林韓正人蔘有限公司董事長 イ・ジュンチャン(韓国)

- ・ 2011年4月、延辺新興工業集中区に設立された。韓国煙草人蔘公社の100%出資子会社で朝鮮人蔘の加工販売を行う。
- ・ 製品は、生人蔘のほか乾燥人蔘・人蔘エキス・人蔘飲料などの加工品である。
- ・ 人蔘の効能については、免疫力強化・疲労回復・血行促進・老化防止・記憶力改善・解毒抗炎症作用などがある。また、人蔘の多用や長期服用の弊害については医学的に根拠がなく、長期間安全に服用できる健康機能食品である。
- ・ 今後の延辺州の人蔘産業発展のため、いくつか提言したい。
- ・ 安定した売買市場を成立させ人蔘製品生産企業の原材料ニーズを満たすため、林地栽培を畑栽培に切り替えて栽培面積を拡大し、一定の生産量を確

保すること。

- ・ 人蔘栽培にあたり、農薬使用の規制や残留農薬の解消方法について政府の指導が必要である。また、無公害人蔘栽培技術の確立のため研究投資すべきではないか。
- ・ 人蔘加工にあたり、加工技術の善し悪しが品質に反映するため、企業が常に最新の加工技術を導入できるよう政府の支援が必要である。
- ・ 人蔘産業の発展を制約する不合理な規則やルールを改善して新たな基準を設け、生産・加工・販売にわたる産業全体の管理システムを構築すること。

4. 会議の感想

- (1) 昨年の会議までは、発言者は出席団体の代表または有識者などに限られて

いたが、今年は延吉市内の企業代表者を招いて発言させるなど改善が見られた。会議の目的を、話し合いだけでなく実際のビジネスの契機となることに置かなければ、現場の経営者の話を聞くことは有意義であると感じた。筆者も延辺州における企業活動の実態について、より深く理解できた。

- (2) 外国への投資や企業進出には、為替の変動、商習慣の違い、理解が容易でない法律や規則など様々なリスクがあるが、これらに正確に対処しつつ利益を上げている企業がある。外国へ進出する企業は、経験の積み重ねにより対処のための方法論が確立されていると強く感じた。日本の(そして新潟の)企業がこうしたノウハウを身につけ、少しでも多く海外で活躍できることを期待したい。



ERINA 撮影



ERINA 撮影